

令和7年度 みーる平針 事業報告

1 事業概要

権利擁護の視点を念頭に、利用者に対して生産活動及びその他の活動機会を提供し、利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるような支援を目指した。生産活動においては解体作業を主軸に、工賃向上を目指し、関係機関を通じた営業活動続けた。課題の見える化によって業務・活動の効率化を目指した。新しい作業を大きく構築することは叶わなかったが、主要取引先二社からの受注が安定し、提供量の安定化と売上・工賃増に繋がった。また「感染対策指針」や「業務継続計画」に基づき、安心で安全な事業所運営となるように必要な措置を講じた。

2 事業所運営

(1) 施設整備

館内の照明を蛍光灯から LED 照明に切り替えた。

(2) 職員構成（令和8年3月31日現在）

（ ）内は非常勤職員で外数

管理者 ※1	サービス 管理責任者	目標工賃 達成指導員	職業指導員	生活支援員	事務員※2	計
(1)	1	1	1 (4)	1	(1)	4 (6)

※1 はあと平針の管理者と兼務 ※2 本部の事務員と兼務

(3) 会議

会 議 名	内 容	時 期	構 成
法人運営会議	各事業所の情報共有と法人の運営課題についての議論を目的とした会議を行った。	毎月1回	理事長 常務理事 各管理者
職員会議	作業・生活の支援、事業所の運営全般について連絡協議した。	毎月1回	全職員
ケース会議	支援上の諸課題に対する検討を行った。	随時	全職員
	全利用者を対象に、個々の支援目標の検討及びまとめ、就労評価を行った。	9月・2月	
虐待防止及び 身体拘束等適正化 検討委員会	虐待の防止、支援力の向上を目的として、本委員会の規程及び方向性を確認し、事業所の課題を共有するとともに、全職員を対象としたセルフチェックを実施した。	6月	管理者ほか 委員2名

虐待防止及び 身体拘束等適正化 研修	「小さな出来事から虐待を考える」を テーマに、事業所内での支援を振り返り、 より良い支援を考える機会とした。	7 月	全職員
ハラスメント 防止委員会	ハラスメント防止とその適切な対応を 図るため、ハラスメントの概要や法人内 規定と委員の役割を再確認した。また、 全職員を対象としたセルフチェックを 実施した。	1 月	管理者ほか 委員 2 名
感染対策会議	感染症の基礎知識を情報共有すると ともに、事業所の感染症対策や業務継続 計画(BCP)の見直しなどを協議した。	5 月・8 月 ・11 月	全職員
感染対策研修・ 訓練	感染症が事業所内で発生した場合を 想定して各対応を考察し、有事に備えた。	5 月・8 月 ・11 月	全職員

(4)職員研修

月	研 修 名	場 所	参 加 職 員
4 月	名古屋市集団指導	オンライン	サービス管理責任者ほか
7 月	名古屋市集団指導（就労選択支援） 雇用管理セミナー	オンライン 名東区	サービス管理責任者ほか 所長
8 月	普通救命研修	千種区	サービス管理責任者
9 月	就労選択支援研修	中村区	サービス管理責任者
10 月	工賃向上セミナー	中区	サービス管理責任者
11 月	人権・倫理研修 スーパービジョン研修 対人援助技術研修	オンライン 北区 東区	目標工賃達成指導員 職業指導員 生活支援員
12 月	発達・知的障害者への支援研修 アンガーマネジメント研修	中村区 東区	目標工賃達成指導員 職業指導員
2 月	運営基準・報酬に関する知識研修 ハラスメント防止研修 工賃向上研修	東区 北区 オンライン	サービス管理責任者 目標工賃達成指導員 職業指導員

(5) 年間計画

月	行 事	行事内容	防 災
4 月	花見	細口池公園へ出かけた。花見団子の他、菓子やノンアルコール飲料を用意した。皆で桜を愛で、春の季節を楽しんだ。	消防用設備点検
5 月			避難訓練（火災）
6 月	外出活動	午後からの半日行事として実施。近隣で外食を楽しんだ。のんびりとした有意義な時間のなか、個別の交流をはかることができた。	
7 月			消防設備自主点検
8 月			
9 月			情報伝達訓練、防災対策会議 避難訓練（地震）
10 月			消防用設備点検
11 月	日帰りバス旅行	「げんきの郷」「やきもの散歩道」「めんたいパーク」へ出かけた。事前に利用者の意向を聞き取り、多数の意見を基に「ステーキハウス森牧場」を食事先とした。皆で、普段と違う雰囲気の仕事や、買い物・散策を楽しんだ。	避難訓練（火災）
12 月	仕事納め昼食会	一年の労いを目的とし、年末の作業最終日に普段と違う食事を提供した。事前に希望を取り、希望に沿った弁当を提供した。	
1 月	初詣	仕事始めに熊野神社へ参拝した。戻ってからはぜんざいと甘酒をふるまい、年初を明るい雰囲気ですて迎えられるようにした。	消防用設備自主点検
2 月			避難訓練（地震）
3 月			防災対策会議
不定期	ティータイム	全 4 回開催し、行事等がない月に日ごろの息抜きとして企画した。アイスクリームやかき氷・ケーキなどを提供したが、開催の事前告知をしなかったため、サプライズとして喜ばれた。	

(6) 健康管理

利用者の健康維持を目的に、体重測定を毎月行った。また、個々の基礎疾患や健康課題、配慮事項について、情報交換の機会を保護者と積極的に持つようにした。これらにより、事業所内において、より安全かつ健康に配慮した支援をすることができた。

年度末には毎月の体重測定結果を基に、体格指数（BMI）を算出した表を各利用者に配布し、ご家庭での健康管理に役立てていただけるようにした。

3 支援概要

利用者の人権と個性を尊重し、それぞれの障害程度や特性に応じた支援を行うことで、地域社会における社会的自立を目指した。また、利用者のニーズに基づく個別支援計画を作成し、職業指導・生活支援という事業所のもつ支援機能を積極的に活用した。

職業指導においては、利用者個々の就労・作業適性について、それぞれの持つ能力や強み、支援が必要な領域について客観的な評価を行った。支援目標を達成するために作業指導を展開し、各利用者が主体的かつ積極的に参加することでやりがいを持てるようにした。活動を通して、就労を続けるうえで必要な社会性の維持・向上も目指した。

生活支援においては、活動のなかで個々の持つADL（日常生活動作）の維持・向上を目指した。また、心身の状況に応じた支援と並行し、利用者同士の心地よい関わり合いが持てるように働きかけ、一人ひとりが楽しく、より落ち着いた状態で過ごせるようにした。

また、新たなサービスとして、単独通所が困難なグループホーム入居者等に対して、送迎サービスを開始した。

（日課）

8:30 ～ 8:40	9:00 ～ 9:05	9:05 ～ 12:00 (10:20～10:30)	12:00 ～ 13:00	13:00 ～ 15:30 (14:20～14:30)	15:30 ～ 16:00
職員 朝礼	朝 礼	作（休 業 憩）	昼 食 休 憩	作（休 業 憩）	清 終 掃 礼

※作業休憩は（ ）内の時間帯にとった。

4 作業活動

主作業を解体とし、ガス部品組付け作業や飲料とゴミ袋セットの販売も展開した。また、工賃の向上を図るため、取引先との受注調整や関係機関を通じた営業活動も行った。

【解体作業】

廃棄する資材を解体し、素材ごとに仕分けて納品した。

株式会社ルーツとの取引においては、引き続き電気メーターの解体を請け負い、年間通して安定して取引をすることができた。NPO 法人ごとべえの会からはテレビチューナーの解体を請け負った。取引が不安定ではあったものの貴重な収益源となった。

いずれの作業も各利用者に適した工程を提供し、工具の適切な扱い方を支援した。

作業の進め方など環境構成にも着目して、効率良く作業が進められるようにした。また、危険性への対策も講じ、安全面に配慮した。

【ガス器具作業】

エフワイ成型株式会社から年間通して安定した受注を得た。ガス部品の組付けや部品検品などを、解体作業に続く活動として展開した。

【飲料販売】

メーカーから飲料を仕入れ、在庫管理や補充などを活動として提供した。定期的な作業機会にはなかったが、物価高による仕入れ値の上昇により売上が下がった。

【ゴミ袋セット販売】

各種ゴミ袋をパッケージした粗品を作って販売した。デザイン会社と天白区役所から受注をいただいた。

【営業活動】

計 11 件の営業活動を行った。多くはウェルジョブ経由で、都度、現作業との収益性等を鑑みて検討し、試行導入も行った。資材を保管するスペースや初期投資額の問題、単価や作業性の問題によりほとんどは未導入となったが、一部は試行導入・商談を続けている。

5 平均工賃

15,177 円／月（前年度：12,787 円）… 最高：20,716 円／月、最低：5,953 円／月

6 その他

(1) 体験実習、施設見学など

(延人数)

夏期ボランティア	高校生（中部善意銀行）	2 名
施設見学（その他）	関係機関職員等	7 名
施設研修	名古屋市新規採用職員	6 名

(2) 広報活動

法人ホームページ・X（旧ツイッター）、事業所紹介パンフレット及び事業所外掲示板の活用や季刊誌の発行などを通じて、地域社会に広く当事業所の活動を伝えた。

(3) 苦情解決

施設の福祉サービスに対する苦情の受付はなかった。

7 利用者状況

(1) 入退所（定員 20 名）

（月末時点の人数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
利用実績	20.1	19.9	19.5	20.1	19.1	20.0	19.3	19.3	19.4	20.2	20.2	20.1

※ 利用実績の年間平均出席人数は、19.8 名 ※ 開所日数：242 日、利用率：94.0%

※ 利用実績、年間平均出席人数及び利用率は小数点第 2 位以下切り上げ

(2) 年齢別

（令和 8 年 3 月 31 日 現在）

年齢 性別	～20	21～ 25	26～ 30	31～ 35	36～ 40	41～ 45	46～ 50	51～	計	平均年齢
男性	0	1	0	1	3	0	3	2	10	43.0
女性	0	0	1	2	2	1	2	3	11	44.3
計	0	1	1	3	5	1	5	5	21	44.7

※ 最高年齢は 59 歳（女性）、最低年齢は 24 歳（男性）

(3) 障害別

（令和 8 年 3 月 31 日 現在）

障害 性別	知的障害	ダウン症	自閉症	てんかん
男性	10	1	7	3
女性	11	1	1	2
計	21	2	8	5

(4) 通所期間別

（令和 8 年 3 月 31 日 現在）

期間 性別	1 年未満	1～3 年 未満	3～5 年 未満	5～7 年 未満	7～10 年 未満	10 年以上	計
男性	0	0	0	1	1	8	10
女性	0	0	0	0	0	11	11
計	0	0	0	1	1	19	21

※ B 型事業開始前から当法人事業所に在籍していた期間も含む

※ 通所平均期間は 17.3 年、最長期間は 34 年（男性）

(5) 障害支援区分別

（令和 8 年 3 月 31 日 現在）

区分 性別	区分 3	区分 4	区分 5	計
男性	3	5	2	10
女性	4	6	1	11
計	7	11	3	21